



美術品の輸送方法

事前準備



お客さまのご要望を反映させた取扱指示書を確認したうえで、フライトプランナーが搭載予定便の積み付け計画を作成。荷役作業責任者と作業に関する打ち合わせを行い、作業場所、人員、資材の確保について確認を行う。

搬入



美術品の搬送時のリスク軽減のため作業場所の近くまでトラックを引き込み、計3名で美術品を取り降ろす。うち補助要員2名は美術品の転倒防止のため、両側を支えるなどの対応を細心の注意を払って行う。

積み付け



運送器材に濡損防止措置を行った後に美術品を積み付け、転倒防止のため固縛ベルトで固定。美術品に損傷などを与えないために、角あてをしたり、隣り合う美術品のすき間に緩衝材を入れ込む。

保管・搬出



出発直前まで、美術品の品質保持のため、直射日光、風雪、高湿度などのリスクを避けた貨物取扱場所で保管。搬送台車は、揺れ防止のため緩衝材ですき間を埋める。航空機への搭載は、損傷・衝撃防止のため低速搬送で慎重に行い、貨物室へ。

当する貨物路線部国際路線室マーケティンググループの高野洋介は語ります。実際に輸送に関わる現場では「美術品の特性を理解し、担当者同士互いによく確認会話をし、適切・確実な取り扱いを心掛けています」(JALカーゴサービス・岡野彩、JALカーゴハンドリング・丸山義信)と、日本と世界の文化交流促進のため、JALグループの多くの人々が心を込めて輸送しています。

とも重要だと考えています。そこで、海外で開催される日本に関する美術展への輸送協力も行っています。例えば、タイ・バンコク国立博物館で開催される、日タイ友好130周年記念「日本美術展(仮称)」(2017年12月開催予定)もその一つです。タイの方々に日本を知っていただく貴重な機会です。今後日本と世界が相互に文化を紹介しあう場を、JALが美術品輸送を通じてお手伝いします。

<JAL が輸送協力予定の美術展>

- 2016年10月8日(土)～12月18日(日) ほか
「ゴッホとゴーギャン展」
東京都美術館ほか
 - 2016年10月15日(土)～2017年1月15日(日) ほか
「クラーナハ展-500年後の誘惑」
国立西洋美術館ほか
 - 2017年2月22日(水)～5月22日(月)
「小袖展(仮)」
フランス国立ギメ東洋美術館
 - 2017年4月8日(土)～9月24日(日) ほか
「ディズニー・アート展 いのちを吹き込む魔法」
日本科学未来館ほか
 - 2017年12月予定
「日本美術展(仮称)」
タイ・バンコク国立博物館
- そのほかの美術展については、下記をご覧ください。
www.jal.com/ja/csr/important/bridge/art.html

日本と世界の文化交流のために 美術品の輸送協力を実施



JALは美術品の輸送を通じて、国内外で行われる美術展に協力しています。経済・文化の交流を促進するために行っている取り組みをご紹介します。



ネットワークを生かして 世界中に美術品を運ぶ

JALは日本の翼として、そしてネットワークキャリアとして、本業である航空輸送事業を通じて、将来の世代によりよい社会を繋げていくことを目指し、さまざまなCSR活動を行っています。活動において、特に大切に考えていることのひとつに「日本と世界を結ぶ」という分野があります。CSR活動を通じて、人々、文化の交流を促進し、経済の発展や平和に貢献したいと考えています。そうした日本と世界との繋がりの実現を目指し、JALグループが行っている美術品の輸送協力についてご紹介します。

JALは四十数年前から現在に至るまで、国際線・国内線のネットワークを生かし、美術展に出品される絵画などの美術品輸送を通じて、各種美術展に協力してきました。1971年11月(翌1月に開催された「ゴッホ展」(欧州各拠点・日本往復)や、1974年4月(6月に開催された「モナ・リザ展」では機内を改修した特別便(日本発モスクワ行)を使って輸送しました。当時は有名絵画が空輸されることが少なく、気圧や湿度の変化、離着陸時の振動などから守る特別コンテナを使用したという記録が残っています。現在はJALの旅客便で輸送しており、年間30展ほどの美術展に協力しています。最近では「生涯300年記念若

大切な文化を伝えるために 慎重かつ迅速に輸送する

技術が発達したとはいえ、歴史がある大切な美術品を運ぶには、さまざまな準備と工程があり、細心の注意を払って輸送を行わなくてはなりません。「これまでの実績を通じて培った美術品輸送のノウハウを継承し、各美術展に合わせたオーダーメイドの輸送サービスを展開しています。例えば、絵画の輸送では絵画を立てた状態にし、絵の面が航空機の側面(窓側)に向くように、貨物室への搭載方向を細かく指定します。また、美術品が食品等の貨物と隣り合わせにならないよう調整するなど、準備は数カ月前から行います。日本と世界を結ぶ懸け橋」を目指し、各関係者と最適な輸送プランをコーディネートしています」と輸送計画を担当



1974年日本での展示を終えた「モナ・リザ」を飛行機に搭載する(出典『「モナ・リザ展」記録』発行：文化庁)。